

令和5年度（上級）特許調査研修（審査官の視点に近づこう！） 実施報告

令和6年3月

独立行政法人工業所有権情報・研修館（INPIT）では、令和5年度（上級）特許調査研修（審査官の視点に近づこう！）をオンライン講義と会場での検索実習のハイブリッドにて2回実施いたしました。本研修では、効果、効率的な先行技術調査手法や、進歩性の判断の仕方などについて、講義だけではなく、演習・グループディスカッション、特許審査官が使う「高度検索閲覧用機器」（一部機能制限あり）を利用した調査実習を通じて学習いただきました。

1. 研修の概要						
(1) 日程	第1回			第2回		
	6月14～15日,19日～20日			12月8、11日、13～14日		
(2) 開催地	東京都(6月19～20日はオンライン)			東京都(12月8、11日はオンライン)		
(3) 参加人数 (分野別内訳)	27 名			20名		
	機械・装置	化学	電気・電子	機械・装置	化学	電気・電子
	9 名	9 名	9名	8名	8名	6名
(4) 講師	8 名			8 名		
2. アンケート結果 (アンケート回収率:第1回 89% , 第2回 89%)						
(1) 研修全体として	人数		割合	人数		割合
・非常に有意義であった	13 名		54.2 %	9 名		45 %
・有意義であった	11 名		45.8 %	11 名		55 %
・どちらとも言えない	0 名		0 %	0 名		0 %
・有意義でなかった	0 名		0.0 %	0 名		0 %
・とても有意義でなかった	0 名		0 %	0 名		0 %
・無回答	3 名		—	0 名		—
(2) 主な意見・要望	・審査官の考え方と、それを特許情報検索に適応させる方法について学べる機会が得られてよかった。特許情報検索に対する苦手意識が多少和らいだ。 FI、Fタームなど普段活用しづらかった要素について詳しく知ることができたため 特許庁の審査官を経験された講師も多く、審査官どのように調査を行っているのかや、いかに拒絶理由通知でのロジックを組み立てるかを学ぶことができ大変参考になった。 グループワークを通して、様々な視点について知ることができたため。また、必要な文献を探すことにおいて、最短の調査方法について学ぶことができたため。 審査官の立場での先行文献への見方が理解でき業務を行う上で参考になった。					